

弓道いばらき

平成 24 年 5 月第 34 号

発行所 筑西市中根 361-2
茨城県弓道連盟
理事長 北島 瑞男
電話 (0296-53-3977)
<http://ibakyuuren.com>

平成二十四年度に向けて



茨城県弓道連盟 会長 柴田 猛

昨年 3 月 11 日の東日本大震災では、想像を絶する未曾有の災害が発生しましたが、早や一年が過ぎてしまいました。被災地では少しずつ復興への動きが始まっているようです。一日も早い復興を祈らずにはいられません。

さる 3 月 11 日県弓道連代議員会があり会長に再任されました。もとより微力ではありますが会員の皆様方のご協力をいただきながら任を全うしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

震災の被害で武道館が使用できずに大会開催等に支障をきたしましたが会員各位のご協力により滞りなく終えることができました。ここに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成 23 年度は国体関東ブロック大会の開催がありました。県弓道連盟発足 60 周年記念射会・祝賀会を会員各位多数の出席者を得て盛大に開催することができました。

ここ 2 年間県外大会の成績は振るわず、全弓連の点数も伸び悩んでいます。国体ブロック予選では全種別惜敗、山口国体への出場を果たせませんでした。更なる活躍を期待したいものです。その中で特質すべきは、インターハイで相原利恵（江戸崎総合高）が個人優勝、関東大会では清真学園高校男子が団体優勝、和田啓佑（清真学園中）が関東大会個人優

勝・全国中学大会個人優勝の栄に輝いたのは特筆できる。将来に亘って弓道を続けてほしいものです。

他方県外審査に目を向けてみると、錬士 8 名、教士 1 名、六段 3 名、八段 1 名の 13 名の合格でした。昨年は 18 名、平成 21 年は 28 名と年々合格者の数が減少しています。このことは五段から錬士、錬士から六段、六段から教士とステップが上がるにつれて難易度が高くなることがありますが、その段位、称号の基準に達しないためということでもあります。

そのための対策、錬士、六段、教士、七段に合格するためには何が足りないかを自分で知らなければ修練の仕方もあるかないかと思えます。二本束って不合格になつて、「束ってなんで落ちたか聞きに来る人」がいますが自分の射の良し悪しを認識していないからだと思います。中つても良い射と悪い射を素直に比較ができるようになっていただきたいと思うものです。

的中するための稽古は大切です。しかし、八節に従い基本に則った行射の結果「残身は開花に似たり」に終わる稽古ももっと大切です。見る人に感動を与える射、魅せる射を期待したいものです。

射技と体配は射の両輪と言われます。執り弓の姿勢・歩き方・跪座・揖・礼・

開き足・肌抜き・擗捌き・矢番え等、見どころ、見せ所は随所にありそれが射品・射格に現れます。

動作の留意点と射法・射技の基本の組み合わせを十分に心して稽古に励まれることを期待したいものです。結果、昇段・昇格者が一人でも多く出ることを祈るものです。

審査申込書について、講習会受講歴の記載がない人があります。記載がないと審査では不利になることがあります。伝達講習会の受講をお願いいたします。

今年度の努力目標は昨年同様ですが以下のように考えております。会員各位のご協力をお願いいたします。

1 競技会・講習会への積極的参加を

大会参加の目的は上位入賞を目指す人、日ごろの稽古の成果が出せるかを試す人、雰囲気を楽しむ人。人さままでです。しかし、その目的の達成度は自己評価がなされているのでしょうか。そして次の大会に生かされていますか。そのところを少しずつ改善し、自己の欠点を修正し向上したいものです。

2 射法射技・体配の向上に努める

今年度の全弓連の講習の目標は、基本を今一度確認しようということです。基本を確認するとは何なのか考えてみると、「弓道教本第一巻」「弓礼・弓法問答集」を再確認することです。講習会へ参加し体配・射技の不十分な点の指摘を受けたり、見取り稽古等で不十分な部分を確認し修正する。そして、「弓道教本第一巻」「弓礼・弓法問答集」を再確認し射技と体配の向上に努めてください。弓道の基本は、射法八節、基本体、射法射技の基本、動作の注意点と言っても過言

ではないでしょう。射技と体配は車の両輪です。今一度基本を見直してみてください。しっかりと体配は射品・射格に表れます。隙のない体配に基づいた射は見ている人に感動を与えるものです。

3 弓道人口の底辺拡大に努める

ここ数年弓道人口の推移を見ると若干の出這入りはあるものの横ばいの傾向にあります。各地で弓道教室を開催していただいておりますが大学、高校、教室卒業生等呼びかけて一人でも多くの人に仲間になっていただけるようお誘いしていただきたいと願っています。

4 弓道を通して自己実現に努める

教本に、身体を強健にし、礼節・信義・克己・謙譲・大和等々の精神を養い人格の陶冶に裨益し生活内容を豊富にすることにある。と述べられています。

いつも話していることですが「長幼の序」「時・所・位」「報恩感謝」を心に銘記してください。ここ数年耳にすることは、「あの人昇段したら人が変わったよ」「急に指導好きになった」「威張りだしたよ」。昇段・昇格が人の心を豊かにするどころか他の人たちに不快感を与える。そのような弓道人に変身してしまう。昇段・昇格しても変身せずに同士に親しまれる、指導者を目指してほしいものです。故範士十段中野慶吉先生は弓道とおして心を豊かにする「活人弓」をとお話になられていました。弓道とおしてお互いに自己実現に努め豊で楽しい生活をしていきたいものです。

いろいろ述べましたが大きな目標に向かって一歩一歩突き進んでください。皆様方の益々のご発展・ご活躍を祈念いたします。

茨城県弓道連盟 発足60周年記念射会 祝賀会 開催

茨城県弓道連盟の発足60周年を記念して、11月13日(日)に射会と祝賀会が開催されました。

《記念射会》

茨城県武道館弓道場

称号者118名、有段者223名が参加いたしました。

開会式、祝賀演武、競射、表彰に続き、臺目演武が行われました。臺目は、射手 柴田猛範士八段、介添 山村晋教士七段、弓持ち 安藤延典教士六段、太刀持ち 森昭夫教士六段、的奉行 大貫富士男錬士五段により行われました。



《記念祝賀会》

水戸京成ホテル

式次第

感謝状贈呈

29団体、個人148名を代表して、茨城県体育協会市村専務理事と天冨子先生に柴田会長から感謝状が渡されました。

開会の言葉

主催者あいさつ

祝辞

茨城県体育協会

参議院議員

乾杯

万歳三唱

閉会の言葉

60周年記念誌が後日発行されます。ぜひ記念誌もご購入ください。



専門部だより

指導部

部長 助川 末廣



震災の影響で道場の使用が出来ず、稽古

不足という不自由な年であったと思います。

その為か、昨年の中央審査の合格者は一昨年の半数以下という、県弓連といたしましても残念な結果となりました。

本年度の目標といたしまして、審査に於いては射技と体配は車の両輪に例えられていますように、体配を軽視することなく、隙のない体配を重視したカリキュラムを組む所存でございます。

・弓構えの姿勢・弓の鉾先は床上十センチ、両拳は腰骨の上に。

(低い人が多い)

・入退場は、目だけでなく、足先が上座に向く、等々。

・視線・立った時の視線、座った時の視線、等々。

・歩行は爪先が開かない、等々。

・開き足は支点の膝は動かさない、等々。

い、等々。

・肌脱ぎ動作、櫛さばき。

・矢番え動作。(組む、見る、甲矢を取る、顔を戻す等)

体配は修練の積み重ねです。何度でも繰り返し行い、体得する事により冴えた体配になる事と思います。残念な事に昨年は特に称号者(錬士・教士)講習会の出席が悪くなっております。高段者になるほど多くの講習会の参加を希望します。

また、昨年より質疑応答の時間を三十分程設けておりますので、疑問点は遠慮する事なく質問し講師の先生方をフル活用してください。射技研修は的中にこだわらず、中てる射でなく中る射を講習会を通して学んで下さい。

その為にも、指導部といたしましても部員一同、エンジョイ弓道の中にも内容の濃い講習会にしたいと努力する所存でおりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

審査部

部長 大峰 芳樹



この度、審査部長を仰せつかりました。

山村前部長の教えを守り、誠心誠意努めてまいりる所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

審査部では県内及び県外審査のお手伝いをさせていただいております。県内審査では、概ね、審査請求書の受付・内容の確認から始まり、受審者の人数の把握、射場の数による審査委員の先生方の依頼、審査会場役員の選任、名札の作成、個人のIDから全日本弓道連盟システムによる審査名簿・立ち順表の作成、審査会場の設営、諸費用の支払い、審査合格者から登録料の預かり、全日本弓道連盟への送金・報告、合格者への認許状の発送などです。

特に、審査会場においては、審査委員の先生方が受審者の体配・射行などの一挙手一投足を見つめる姿、そして、今日まで受審者を指導してこられた先生方の真剣に見つめる姿、それ以上に緊張して審査に臨む受審者の姿を目にしております。

これらの審査会場が審査し易く、受審し易い環境を願って進めてまいりたいと考えております。

これも一重に受審者の方々の日々の稽古の中で、射法八節による正しい姿勢で正しい射を目指し、背骨を伸ばし胸郭を広げて左

右の均衡を図り、気力を丹田に納め満を持しての精神の集中から生まれる正確な中を求める姿となっておりま。これらを尽くしても的中しないときの原因はすべて自分自身に起因することで自己反省の繰り返しに立っての審査です。また、学科試験では、教本を思い浮かべ、日々の教えを必死に纏めようと筆記用具を走らせる姿、一日一日を大切にして悩んで克服して前に進む姿を目の当たりにしている審査の裏方としての気持ちです。

特に、昨年の弓道いばらきに柴田会長の努力目標のひとつであります「弓道人の底辺拡大に努める」として大変ありがたいことに審査では、無指定の受審者が多くなっております。文字通り、受審者にとって初めての審査であり、受審し易い環境に努める所存ですが、武道館は年間の行事がかなり多く、試験会場や控えの場所の確保が難しくなっております。

審査委員や受審者にご迷惑をお掛けしておりますが何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

■審査部からのお願い

1 審査申込期限日は、審査実施日前日（県外審査75日前、県内審査20日）

2 「弓道 級・段位審査申込書」は必ず添付
3 個人のIDは必ず記入

競技部

部長 森 昭夫



今年度より
前稲葉部長に
代わりまして
部長を拝命し

ました、玉里酔心館支部の森です。副部長に新任の同じ玉里酔心館の平原勝己が入り、大貫富士男（小川支部）が引き続き副部長を務めますのでよろしくお願いいたします。

1 前年度の大会運営

振り返りますと、平成23年度の競技大会は東日本大震災の影響で県武道館が使用できず、4月に予定されていた春季大会が延期されました。5月20日に武道館が再開され、5月20日に選手権大会（称号者の部）を先に開催し、春季大会は県選手権大会（有段者の部）を兼ねて開催することができました。会長以下県弓連役員の方々のご尽力により大会の中止もなく無事各大会を終了しております。

競技大会の参加人数は、震災の

影響で前年度よりも250名減少しましたが11月に開催された県弓連発足60周年記念大会が開催されたことにより、ほぼ前年度並みの2150名の参加でした。

2 競技力向上と遠的

去る3月11日の代議員大会に於いて柴田会長から、平成31年には茨城国体が開催されます。“競技力の向上”を目指したいとのご挨拶がありました。

競技部としては平成16年度から当時の須田部長の発案により、遠的場を解放して自由に遠的ができるようにしてまいりました。遠的は離れの良い勉強になることや遠くへ飛ばすことで大きな離れができるなど利点が多々あります。

柴田会長が過去に弓道誌で遠的を勧めています。その一部を転写しますと、『（前略）近的、遠的で手の内を変える必要はない。（中略）会でただ持っているだけで離す人が多いが、気力で伸び合い、胸に楔が入るように離れるのが良い。そのためには弓手親指から胸のまで気脈が通じていて、妻手肘から両肩、肘、角見までの線が切れなことが大切。小手先の離れはだめ。残身をきちんととれる人が少ないが、『残伸び』といわれ

るような伸び合いが必要だ。癖のある人は大離れをしていると癖が取れてくるから遠的を勧めたい。』とあります。

県内で遠的が練習可能な場所ほとんどなく、練習が出来ないために遠的大会への出場者数も毎年100名を割っています。是非とも皆様には矢筒に遠的矢を常備され、気楽に練習されることをお願いいたします。そのために施設部に大的の準備をお願いしていますので、その努力を無駄にしないよう重ねてお願いいたします。

国体関東ブロックで茨城県の弱さが遠的で出てしまいました。近的・遠的どちらも強い選手育成のためにも普段から遠的競技に慣れしておく必要性があります。弓道がスポーツである限り、競技に勝つことが大切です。競技力を向上させるには、基本的な体力（日常のたゆまぬ練習で体力をつける）、強い精神力を養い自分に勝つ（会場で集中力と耐える力、決断力をつける）ことで競技力の向上を図り、更には遠的を取り入れることで遠的の苦手意識を無くし幅の広い競技人になりましょう。自分は国体選手じゃないから遠的は遠慮しよう・・・などと言わず、前述しましたように遠的の利点を近的に生かせるよう、どうぞ遠的場をこ

活用くださるよう強くお勧めいたします。

3 本年度競技運営

本年度の競技運営につきましては前稲葉部長が築き上げた方式を継続していきます。

各大会の運営にあたっては茨弓連全体の競技運営能力向上を目指するため、全面的に各地区委員長を運営責任者として各地区から選出された会員の方々のお力により運営するシステムになっております。

運営を円滑に進めるために大会毎に「競技運営要領」を作成し、事前に配布することで初めての係りでも何をどう進めていくかが明確になっていきますので、迷わずに係りに専念できると考えております。

今後とも運営要領を見直ししながらより良いものに進化させていく所存ですので、不具合などあればご提案をお願いいたします。

4 マナー向上

最後にマナー向上もお願いいたします。それは競技中に道場控えの選手同士の大きな声での談笑があります。久しぶりに会えた弓友との会話はつい弾むものです。大声は射場にも聞こえますので、別



部長 竹之内 正宏

強化部

1 昨年度の反省と今年度の活動方針

な場所をお願いいたします。弓友を沢山作れる県の良いところですよ。弓友の輪を大いに広げましょう。

また、選手が退場しようとする出口にも見学の人や選手を応援する仲間がいて、選手が1、2歩出たばかりでありながらおしゃべりをする姿が数多くあります。これでは行射の後の澄ましが出来ていませんし、出来ません。反省が出来ないから次の射に反映されません。お互い注意したいものです。

上記2点のことは大人ですので紙上にてお願いすることにいたします。

末筆ながら弓友皆様方の県内・県外でのご活躍を祈念しますと共に、県内で弓道の練習をしているがら県の行事に参加されない人達も結構いると認識しています。是非ともお誘い合わせの上、今年度は前年度を上回る参加人数になるようお願いしまして競技部長の挨拶といたします。

昨年度は、関東ブロック大会が地元茨城で開催されましたが、残念ながら成年／少年の男女のとも本国体に出場することが出来ませんでした。

ご指導、ご声援頂きました諸先生方にお応えすることが出来なかつたことを強化部員および選手一同、大変申し訳なく思っております。

さて、昨年度の敗因を分析しますと、第一の敗因として、関東ブロック本番での成績不振が挙げられます。これは、強化練習を通して、関東ブロックを突破できるところにまでに技術的にはレベルアップしていたと思っておりますが、精神面の弱さを露出し、そのレベルアップした技術を引き出すことが出来ませんでした。今年度は、更なる技術面の向上はもちろんのこと、精神面の強化（技術に基づいた精神的なレベルアップ）を図っていく必要があると考えます。

第二の敗因としては、選手層の薄さからの競争心の低下が挙げられます。昨年度は、選手と補欠の間に差があり、その差がチーム内での競争を低下させていたため、緊張感を持った練習の中でのレベルアップが図れませんでした。まずは、選手候補全体の底上げを行

い、国体を目指せるようなレベルの選手を増加させたいと考えます。次に選手層の拡大のため、県連主催の各大会での選手候補の発掘や茨城県出身の高校／大学の弓道部の卒業生の発掘等を行うことで、選手層を拡大していきたいと考えます。

第三の敗因としては、心の中に隙があつたことによると考えます。昨年度は、チーム構成を切り替えてから2年目であり、同じようにやれば良いと思つていた部分があるのどこかにあり、今振り返ると油断している部分があつたと考えます。今年は、もう一度初心に戻り、挑戦者であることを思い出し、あらゆることにどんな欲に取り組み、真摯に反省し、常に上を目指すチーム作りをしたいと考えます。

以上の反省を踏まえ、本年度の方針として以下の3つを重点目標として、強化練習を行っていきま

- (1) 技術面／精神面を中心としたあらゆる面でのレベルアップ
- (2) 常に挑戦者としての継続的な努力
- (3) 選手層の拡大と活気ある強化練習

2 国体強化練習のご紹介と強化練習へのお誘い

ここで、国体強化練習の1サイクルについてご紹介させて頂き

ます。国体強化は、11月の冬季強化練習からはじまり、10月の本国体で1年のサイクルが終了します。

(国体強化の流れ)

11月～3月

冬季強化練習（選手候補選抜）

4月～6月

国体1次強化練習（選手選抜）

7月～8月

国体2次強化練習

8月

関東ブロック予選

9月

本国体前強化練習

10月

本国体

各練習を補足すると、冬季強化練習は、4月～10月までの県連の試合に出場された方から、選手候補を選出させて頂き、案内を差し上げております。1次強化練習は、前年度の冬季強化練習の結果を元に、当該年度の選手と補欠候補を選出してあります。2次強化練習は、前年度の冬季強化練習、および1次強化練習の結果を元に、関東ブロックに出場する選手と補欠を選出してあります。

練習では、近似的と遠的を合わせて1日40～80射程度射数をかけ、体力面での強化も図っております。

また、的中だけでなく、射形（的付、会の安定感、発の鋭さ）も重要な選考基準としております。7年後の2019年茨城国体の開催が決まりました。

国体強化練習に参加してみたい、国体に出場してみたいという方がおられましたら、選手強化部員まで連絡ください。（県連名簿参照願います。）

2019年茨城国体を目指しましょう！

施設部

部長 園部 俊雄



平成23年度におきましては、3月に発生した大震災

により武道館が使用禁止となり、大会等の日程の再調整を余儀なくされました。短期間で使用再開となつたあとは予定通り行事を順調に終えることができました。これは各地区当番の皆様のご協力の賜物とあらためて感謝申し上げます。特に8月に行われました関東ブロック予選では皆様のご協力により、無事に終了することができました。猛暑の中、たいへんご苦勞様でした。

また、久しく待ち望んでおりました遠的場の的場小屋が完成の運びとなり、平成23年5月15日に竣工式が執り行われました。これまでは、遠的実施の都度、倉庫から遠的用具一式を持ち出しているのが、的場小屋が完成してからは、近的と同様に利用しやすくなりました。

平成24年度は大きな大会の予定はなく、例年通りの行事予定となっております。引き続き各地区当番の皆様のご協力をいただき、大会等に万全を期してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

地区だより

日立地区

日製日立支部 伊東 喬

本年3月31日、日立市弓道場（久慈体育館内）の、あずち整備（全砂入替え）作業が、この道場を使用している4支部を中心に、日立市弓道連盟会長川野辺道男氏、慈弓会や他の弓友の協力を得てようやく終了することができました。この道場は昨年3・11大震災で採屋の瓦崩落、照明設備の損傷

などで使用禁止が続いていたもので、最後の補修としてトラック1台分の砂を市からの提供、積み上げ労力は各弓士の奉仕で行われました。また北茨城市民弓道場（体育館全域は避難場所に指定）では、射場床全面の張り替え工事も3月30日に終了。

そして日立市の久慈弓道場（昭和36年新築、親しみをこめて“五来道場”という）は、はじめて経験した大津波被災からの奮闘ぶりを記事にさせていただきました。このように昨年の3・11「東日本大震災」の影響が、かくも長期に地区の各弓道場に及んでいたのです。

現日立支部長の五来勉先生の寄稿文を続けます。

平成24年4月1日

日立市支部長 五来 勉

平成23年3月11日、突然の東日本大震災の当日、久慈町の瀬上川が氾濫し高さ1.5mの津波に襲われ道場内は甚大な被害を蒙りました。室内備品のロッカーをはじめ大型ストープ、戸棚、テレビ、冷蔵庫などへ泥の中にすべて転倒、更には18個、おぐしが流失不明。また、アズチ砂の半分は流され、残りの砂も強い塩分を含み室内外には15cmほどへ泥が堆積、弓道場は閉場するところまでいきました

が、全会員の熱意と献身的な5日間の奉仕作業により、何とかアズチを残し復旧にまでこぎつけました。その後、多くの方々から励ましのお言葉に元気づけられ、戸棚・冷蔵庫・掃除機などの備品寄贈を受け、更に日立地区高齢者弓道会（会長：北茨城市支部長田村章氏）をはじめ全日本弓道連盟より災害お見舞金をいただきました。特に県弓道連盟の柴田 猛会長、木村喜久雄副会長が来訪、直接お見舞い金を届けて戴きました。

会員一同深く感謝し、再建と弓道の射術・精神の研鑽に一層努力することを誓いました。これらの見舞金により、アズチ砂の全面入れ替えや巻藁の交換、道場の建屋修理など有効に使用することができ、45名の会員一同は日々練習に励んでいます。

このように関係する皆様のご配慮により、一年掛けて補修整備を無事に終える事が出来ました。

活動面では、4月1日第41回村松山弓道大会（昨年は中止）が弓道スポーツ少年団（小学生）23名・中学生（5校）142名・高校生（12校）216名・一般66名・来賓23名、総勢470名の参加を得て実施。村松山弓道大会実行委員会

水戸地区

水戸支部 曲山 伊之吉

水戸地区は県央に位置し、16支部290余名の会員をもって構成されています。



濱野会長より多数の参加に対する感謝の言葉・村松山虚空蔵堂原住職から自己と戦う弓道の美しさについて・来賓挨拶で村上村長は、若い澆刺とした小・中・高生の多い参加者に目を細められ、清楚に弓と共に成長して行つてほしい・・・と挨拶されました。

こうして24年度の本格的な競技がスタートしました。日立地区全道場が大震災被害を克服し揃ったので、各支部の活気が漲ることを期待しているところです。

水戸地区には伝統的に続けられている、三つの競技大会があります。その1は、六月にひたちなか市湊で実施されるカッ才祭り大会です。那珂湊支部当時の行事で、現在は、ひたちなか勝田・湊と合同で引き継がれています。

その2は、笠間市の菊祭り弓道大会です。笠間稲荷神社の祭礼と同時に、流鏑馬を見ることができ、チャンスをあります。

その3は、年度末3月の水戸市の寒梅弓道大会です。が、平成23年3月は、東日本大震災のため、会場の武道館が使用不能となり大会目前で止む無く大会を中止せざるをえなくなりました。

大会スタッフは急遽大会中止の連絡に追われました。（申し込み計696名）平成24年3月は震災から一年を過ぎ、第50回水戸市寒梅大会が復活し、一般182名、高校生335名の参加がありました。この大会のユニークな点は、受け付けるとお弁当の引換券とどら焼き（大）をもらい、競技では、的中賞（二中賞、三中賞、皆中賞）としての数のだけ「わら納豆」をゲットできることです。入賞は皆中者から射詰め方式で各部門三位までです。

春は寒梅大会から、と紹介いたしました。他の大会も復興の心意

気をもって、伝統の継続ができることをお祈りいたします。

石岡地区

小川支部 大貫 富士男

石岡地区には、石岡、航空自衛隊百里、玉里酔心館、桐弓会、美野里、八郷、小川、の各支部が在ります。

石岡支部は稲葉支部長ほか15名の会員が芹沢弓道場で稽古に励んでいます。月例会や市主催の武道大会があり積極的な活動を実施しています。

航空自衛隊百里支部は富山支部長ほか10名が夜間または休日基地内にある弓道場で稽古に励み平成23年度全自衛隊大会において団体優勝をなしました。

玉里酔心館支部は須田支部長ほか10名が酔心館弓道場で稽古に励んでいます。

桐弓会支部は嶋田支部長ほか18名が石岡商業高校弓道場で稽古に励んでいます。

美野里支部は丸支部長ほか6名が美野里弓道場で稽古に励んでいます。

八郷支部は堤支部長ほか2名が石岡市八郷弓道場で稽古に励んでいます。



小川支部は小川高校弓道場を借用し稽古を実施しています。昨年は航空自衛隊百里支部と合同で講習会を行い基本の動作を確認しました。これからも講習会を実施していきたいと考えています。

鹿行地区

神栖市支部 川瀬 政人

鹿行地区には鉾田支部、山王会支部、玉造支部、麻生支部、潮来支部、鹿嶋支部、波崎支部、三菱化学支部、神栖市支部の9支部があり、今回は神栖市支部について紹介します。

神栖市人口は約92,000人で茨城県内でも9番目に多い市で

す。神栖市には大きな石油化学コンビナートが数社とその関連会社も多いため武道を志す人も多く、その中の一つの弓道では神栖市支部登録会員44名、昨年は新錬士1名が4年ぶりに誕生し称号者7名、有段者37名で活動しております。

神栖市支部の母体である「神栖市弓道連盟」は昭和49年、神栖町弓道連盟として結成され、神栖町支部として昭和57年県弓道連盟に登録、初代支部長には高橋平吉先生が就任され現在で三代目になります。

「神栖市支部」は「神栖市弓道連盟」の傘下であり二団体で構成されて、その内訳は「神栖市支部」は茨城県弓道連盟に登録した人のみで構成しており「神栖市弓道連盟」は神栖市近隣の他支部の人でも入会条件を充たしていればどんなでも入会できます。

また、平成の大合併により神栖町と波崎町が17年8月1日に合併して神栖市となったことにより「波崎町支部」は「神栖市弓道連盟」に加入し、また、会員の練習日が神栖道場、波崎道場と重ならない様に調整して両方使がえるように曜日、練習時間帯を調整し活動しております。

それでは「神栖市弓道連盟」の

年間活動行事を紹介いたします。1月は鏡開き射会から始まり、3月の雛祭り射会は女性が主催で、思考を凝らした的を射て祝います。4月の花見射会は花的で競い桜の木の下で弁当を食べながら花見、もちろんノンアルコールです。5月の春季大会は県内各地区と交流のある隣接県の千葉県からの参加もあり毎年約180名程の参加者があり盛大で、今年で33回大会を迎えます。しかし、昨年の32回大会は3月に発生した未曾有の東日本大震災の影響で残念ながら開催中止となつてしまいました。会員の中心にも自宅が全壊または、大規模半壊と被災された方々何人もおられ、いまだ避難生活を余儀なくされております。早く正常な生活に戻れるよう願っております。

弓道教室は昭和58年から始まり、毎年7月8月に開催し、平成22年度現在で249名の修了生を送り出しています。7月は暑いので冷房の効いた所に場所を変えてビールで暑気払い。年に何回か講師の先生を招聘して講習会を開き射技、体配を指導して戴いております。お蔭様で昨年は錬士1名、五段1名、四段3名、二段1名、計6名の昇段昇格者がありました。また、国体選手、ねんりんピック選手も誕生しました。毎年弓道

研修旅行と称して一泊二日のバス旅行で親睦を深めます。毎月の月例射会は新人男女、一般男女の各優勝者を決め、月例会年間最多優勝者を年度末に表彰します。年末は大掃除の後、納射会、夜は忘年会にて一年を納めます。

今年からは中学校武道必修化になり、また7年後の茨城国体選手育成も考えて小学校高学年生を募集し指導の予定です。

そうした活動・活躍やトピックスをブログに掲載し情報を公開しております。興味のある方はg o o プログ神栖市弓道連盟を一度覗いて見て下さい。

そして最後になりますが、神栖市弓道連盟、神栖市支部をこまめで立派に育てて下さった教士六段高橋平吉先生が今年1月30日(84歳)ご逝去され大切な指導者を失ったことは神栖市弓道連盟にとつて大変残念でなりません。ご冥福をお祈りします。

土浦地区

土浦亀城支部 清水 匡

土浦地区は阿見支部・かすみぐら支部・筑波医学支部・筑波春日支部・つくば支部・土浦支部・土浦亀城支部・新治支部の八支部

で構成されております。

土浦地区内のおもな行事は、土浦桜祭り弓道大会（4月）・平三坊奉納射会（5月）・かすみがうら市長杯弓道大会（9月）の三つの大会が行われております。

桜祭り弓道大会（土浦市体協弓道部）は、昨年度は東日本大震災の為に中止になりましたが、今年度は、中・高校生は26校425名の参加、一般は30支部231名の参加が予定されております。

平三坊奉納射会とは、かすみがうら市の鹿島神社で行われ、男性の巨大なシンボルを持つて練り歩き、女性がそれに触る事により子孫繁栄と五穀豊穡を祈願する祭礼の一つとして行われる射会です。鹿島神社の境内に仮設の安土造り野天で行われ、なごやかな雰囲気の中、真剣な行射が行われ、昨年度は48名の参加が有りました。かすみがうら市長杯弓道大会は、昨年度は50名の参加をえて、4人の団体戦（個人をかねる）を行い地元産の農産品が20位まで賞品として出される事もあり熱気のこもった大会でした。

山桜弓道大会（新治支部）が20回をもって、終了されたのは残念でなりません。

以上が土浦地区の主な行事です。ここで、私の所属する土浦亀城

支部の行事についてご紹介いたします。

毎月行う例会は「錬成会」と称しの中のみを競うのではなく、日頃の稽古で培った技と心の強さを確かめ、更なる高みを目指す目的で行います。9月の錬成会は「敬老射会」で、70歳以上の会員を招待し、一般会員の祝射、招待者の答礼射を行い、余興的として金的・扇的・板割り等を射ます。射会の後には食事で長寿のお祝いを行います。また12月是一年の感謝を込めて道場の大掃除を行った後、納射会で一年を締めくくります。1月は射初め、2月は追儺射会です、参加者全員が鬼的を引き全員が当たるまで行った後、出世的や



金的を行います。3月は50射会を行います。矢渡は五段以上の会員から射手を決め、介添は射手の指名で行われますが、原則的には受けなくてはいけない事になっていきますので、毎回会員の研鑽の場にもなっています。上記以外の錬成会では矢渡は五段以上の会員が勤め、矢渡の後には持ち的射礼・一つの射礼の演武を行っています。会員一人一人がそれぞれの目標に向かって切磋琢磨しながら稽古に励んでいます。

県西地区

北総支部 鈴木 隆之

県西弓道大会も今年で31回を迎え、284名の参加者のもと盛会のうちに無事行うことができました。

もともと正月と夏に行われていた境高校弓道部OB射会より、1月2日に行われていた正月の大会を譲り受け、県西地区に弓道を根付かせ発展させようと北総高校（現八千代高校）の弓道場を会場として始めたものでした。当初は境高と北総高の弓道部員とOBを中心に高校一般関係なく競い合っていました。100人に満たないわずかな人数で参加費も取らず、2



高のOB会の持ち出しで豚汁をつくり、参加者に振る舞うなど、アットホームな大会でした。

正月の大会ということもあり、高校生ばかりでなく大学等県に外出たOBの参加、県外の高校生や一般の方の参加もありました。その後、第7回より正月3ヶ日を除く最初の日曜日を開催日としました。平成元年には大会前日に昭和天皇が崩御され、開催すべきか否か協議の末、急遽、一手のみで開催したこともありました。さらに200名を超える参加者の増加とともに平成4年には県西地区支部連合会の主催の大会として組織を再編成し、筑西市の日立化成五櫻館弓道場に会場を移し、今日に至っています。同時に前年の昇段・昇格者の祝賀射会としての位置づけ

も加わりました。

なにぶん正月早々の真冬の大会ということもあり、参加者の雪による矢道の除雪、水道の凍結によるトイレ等の水回りの心配や安土区の仲間が集まり協力して開催しています。県西地区の弓人の結束の一端を担っています。

最後に、的中による順位決定ばかりでなく、技能優秀賞を設けているのもこの大会の特徴で、参加された多くの弓人の励みになっていくことと思います。

県南地区

龍ヶ崎市支部 奥山 郁夫

平成23年は、3月11日の東日本大震災の影響で、各種大会が予定通り開催されず、また多くの道



場も使用不可能となつてしまったことですが、当支部の活動拠点である龍ヶ崎市立愛宕中学校の弓道場もその例に漏れず、4月末まで使用禁止となつてしまいました。弓道場自体、直接の被害はなかったものの、施設の安全が確認できるまでは稽古ができませんでした。その後、5月から道場は再開されましたが、夜間照明を使用すること、また使用時間帯の節電等の理由から、通常より1時間繰り下げの午後8時からの利用に制限されました。現在は通常の時間帯（午後7時～午後9時）で活動できるようになり、参加人数も常時7～8人とさほど広くない道場が賑わっています。

6月には震災の余震が続く中、毎年開催している『龍ヶ崎市初心者弓道教室』は、関係者と協議を重ねた結果、なんとか実施にこぎ着け、少ないながらも6名の参加を見ることができました。

また10月には、市体育協会主催の『スポーツレクリエーション祭り』にも出展し、弓道を知らない市民の方々にも、わずかながら体験していただくことで、弓に興味を持ってもらうこともできました。

さらに龍ヶ崎市内の中学校（6校中3校）・高校（4校すべて）

には部活動として弓道部がありますので、若年層の競技力向上のため、『市民スポーツフェスティバル』の中で競技会を開催しています。平成23年度は93名の高中生が参加し、日頃の稽古の成果を競い合いました。

平成23年度の当支部での嬉しい出来事として、称号者が1名増えたことが挙げられます。普段から休まず稽古を重ね、射技・体配はもとより弓に対する考え方を磨いてきた結果が表れたものであり、指導者としての成長と、後に続く者への刺激が期待されます。今後の課題として、市内には中学校・高校の弓道部卒業生が相当数いると思われまますので、その掘り起こし策に力を注ぐことが必要となつてくるでしょう。

会議報告

県外

- 関東地域弓道連盟連合会会議 (H23/9/11 柴田)
- 全日本弓道連盟定時評議員会 (H23/5/26 柴田)
- 全国地連会長会議 (H23/11/3 柴田)
- 全日本弓道連盟通常評議員会 (H24/2/17 柴田)

県内

- 専門部長会議 (H23/1/29)
- 理事会 (H24/2/25)
- 代議員会 (H24/3/11)

研修事業報告

県外

- 〔関東〕(北) 地区指導者講習会 (上尾市 H23/5/14～15)
- 中井川一郎、川瀬政人、林田幸子、小堀富男、萩野谷綾子
- 〔関東〕 女子講習会 (宇都宮市 H23/6/25～26)
- 海老根芳江、塩津多恵子、小室セイ子
- 〔関東〕 地連幹部講習会 (上尾市 H23/7/2～3)
- 明間勲、市毛道子、宮崎康美
- 中央研修会 (名古屋 H23/10/7～9)
- 市毛道子
- 関東教職員弓道指導者講習会 (群馬 H24/1/21～22)
- 4名参加
- 指導力向上指導者講習会 (福岡市 H24/2/4～5)
- 山村 晋
- 講師研修会 (浜松市 H24/3/2～4)
- 柴田、久保田、橋本

県内

- 講師審査委員講習会 (土浦 H23/4/17) 58名
- 三四段講習会(第一回) (土浦 H23/5/14) 51名
- 錬士研修会(第一回) (取手 H23/6/11) 36名
- 教士研修会(第一回) (取手 H23/6/25) 20名
- 支部指導者講習会 (土浦 H23/7/2) 44名
- 五段講習会(第一回) (土浦 H23/7/16) 39名
- 高体連審判員講習会 (水戸 H23/7/18) 134名
- 教士研修会(第二回) (水戸 H23/9/3) 25名
- 三四段講習会(第二回) (水戸 H23/9/24) 46名
- 学校指導者講習会 (水戸二高 H23/9/24) 19名
- 中体連ジュニア強化練習会 (水戸 H23/10/8) 60名
- 五段講習会(第二回) (土浦 H23/11/6) 24名
- 錬士研修会(第二回) (水戸 H23/12/18) 34名
- 述べ参加者数 590名

県外大会 一般

第62回全日本弓道大会

- ・(京都市 H23/5/2～3) 射詰3本目24cm的へ進出
- ・柴原一利子、林田幸子、黒澤智子、中井川美枝子
- 第58回全日本勤労者弓道選手権大会 (恵那市 H23/6/3～5)
- ・原子力機構(平根伸彦、小泉紀子、山口恭弘)
- ・日立製作所(茨城)(木元雄太、笹沼健一、久保田亮)
- 第49回関東教職員弓道大会 (中央 H23/7/3)
- 第62回全日本選手権関東地域代表選手選考会 (前橋市 H23/7/17)
- ・天皇杯(張替謙一、明間勲、森昭夫、小松正幸)
- ・皇后杯(柴原一利子、林田幸子、中井川美枝子、柴田隆子)
- 第42回全日本教職員弓道選手権大会 (射水市 H23/8/11～12)
- ・個人男子
- ・準優勝(後藤裕一)
- ・団体女子
- ・準優勝(大金喜代子、柴弥寿子、木村亜紀子)
- 第66回国民体育大会関東ブロック大会 (水戸市 H23/8/27～28)
- ・成年男子
- ・藤枝秀平、尾吹将大、山口 純
- ・成年女子
- ・飯田純子、高柳美咲、黒澤智子

第52回関東地域弓道選抜選手権大会

(宇都宮市 H23/9/11)

・有段者の部

(菊地俊和、海老原和典、

中村和子、山口 純、石田昌嗣)

・称号者の部

(清水 匡、黒澤智子、明間 勲、

小松正幸、中井川一郎)

第62回全日本男子弓道選手権大会

(天皇杯)

(中央 H23/9/22~24)

・張替謙一

第43回全日本女子弓道選手権大会

(皇后杯)

(中央 H23/9/24~26)

・柴原一利子、林田幸子

第66回国民体育大会

(山口市 H23/10/2~5)

第24回ねりんピック2011

熊本大会

(熊本市 H23/10/15~18)

・優秀賞獲得

(小形佳昭、関島 勝、庄司幸夫、

塚田重光、斉藤ミユキ、荻原裕一、

大田喜恵子、小野田文雄)

第62回全日本弓道遠的選手権大会

(弘前市 H23/10/28~30)

・男子の部 (高木 勉、平戸信行)

・女子の部 (黒澤智子、宮田はるみ)

平成23年度明治神宮奉納全国弓道大会

(中央 H23/11/3)

・称号者の部

第5位 (来栖 茂)

第12回全日本遠的弓道選手権大会

(中央 H24/1/7)

・一般男子 (菊地俊和、小島敏和)

・一般女子 (黒澤智子、小島幸子)

県外大会 高体連

第29回全国高等学校弓道選抜大会

(鹿児島県 H23/3/19~21)

震災のため中止

第55回関東高等学校弓道大会

(東京都 H23/6/3~5)

・女子団体の部

優勝 清真学園高校

・男子個人の部

3位 平岡拓也 (栄進)

・女子個人の部

7位 富永早奈恵 (鉦二)

第56回全国高校弓道大会

(岩手県 H23/8/4~7)

・女子個人の部

優勝 相原利恵 (江総)

第66回国民体育大会関東ブロック大会弓道競技

(茨城県 H23/8/27~28)

第30回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会

(東京都 H23/9/10~11)

・男子の部

4位 武石 衛 (石商)

第30回全国高等学校弓道選抜大会

(岐阜県 H24/3/23~25)

・男子の部 石岡商業高校

・女子の部 筑波高校

県外大会 中体連

全日本少年武道(弓道)錬成大会

(日本武道館 H23/7/19)

第22回関東中学生弓道大会

(茨城県武道館 H23/8/8)

・男子団体の部

3位 清真学園中

・男子個人の部

優勝 和田啓佑 (清真学園中)

3位 青山拓也 (阿見中)

5位 飯村龍太郎 (土浦三)

・女子個人の部

5位 柳本里奈 (阿見中)

6位 遠藤瑞帆 (土浦三中)

第8回全国中学生弓道大会

(中央 H23/8/20~21)

・男子個人の部

優勝 和田啓佑 (清真学園中)

・女子個人の部

優勝 和田啓佑 (清真学園中)

選手権称号

H23/5/22

▼男子の部

優勝 小松正幸

準優勝 中井川一郎

3位 塚田哲也

▼女子の部

優勝 黒澤智子

準優勝 柴原一利子

▼最高得点

男子 張替謙一

女子 柴原一利子

選手権有段

H23/5/29

▼団体

優勝 土浦 C

準優勝 藤代

3位 水戸桜川

▼男三段以下

優勝 江口昭裕

準優勝 今泉貴浩

3位 鈴木慎也

▼男四・五段

優勝 海老原和典

準優勝 藤枝秀平

3位 岩間捷雄

▼女三段以下

優勝 水野希美

準優勝 高柳美咲

3位 川畑映子

▼女四・五段

優勝 木村陽子

準優勝 中村和子

3位 金子久美子

▼称号者

優勝 柴原一利子

準優勝 小島幸子

3位 根本信哉

▼優秀賞(団体)

土浦 C

水戸桜川

▼優秀賞(個人)

(初) 大森悟司、小松滉佑、

(貳) 大西伸明、江口昭裕、

(参) 水野希美、大森陽平

(四) 海老原和典、山口 純、

(五) 金子久美子、辻尚 宏

県民総体

H23/6/19

▼男三段以下

優勝 今泉貴浩

準優勝 荒木広大

3位 羽鳥啓太

▼男四段以上

優勝 太崎 優

準優勝 藤枝秀平

3位 山口 純

▼女三段以下

優勝 水野希美

準優勝 草下理恵子

3位 小林美環

▼女四段以上

優勝 古山道子

準優勝 飯田純子

3位 塚田有美子

▼称号者

優勝 中井川一郎

準優勝 小堀富男

3位 石井和子

夏季練成

H23/7/24

▼5人立団体戦

優勝 土浦亀城A
準優勝 蒼籐会
3 位 美野里、北総

遠の大会

H23/9/4

▼男四段以下

優勝 尾吹将大
準優勝 山口 純
3 位 木元雄太

▼男五段以上

優勝 高木 勉
準優勝 平戸信行
3 位 石井 誠

▼女四段以下

優勝 高柳美咲
準優勝 小林美環
3 位 上田有香

▼女五段以上

優勝 黒澤智子
準優勝 宮田はるみ
3 位 上馬英子

中野杯

H23/9/18

▼男子の部

優勝 飯村友三郎
準優勝 海老原和典
3 位 田中宏和

▼女子の部

優勝 山崎亜紀
準優勝 太田和子

3 位 上田有香
▼称号受有者
優勝 郡司武満
準優勝 山村 晋
3 位 小堀富男

段位別

H23/9/25

▼二段以下

優勝 青砥秀典
準優勝 村松喜久代
3 位 永田修一

▼三段の部

優勝 平根伸彦
準優勝 水野希美
3 位 高居 晃

▼四段の部

優勝 飯田純子
準優勝 尾吹将大
3 位 笹沼健一

▼五段の部

優勝 唐澤 章
準優勝 黒杭正吉
3 位 島田一也

▼称号受有者

優勝 立山たみ子
準優勝 小松正幸
3 位 後藤裕一

▼優秀賞

二段以下 村松喜久代
三段の部 平根伸彦
四段の部 橋本真樹

フィステイバル

H23/11/12

▼男子の部

優勝 和田啓佑
準優勝 利光洋樹
3 位 三浦優介

▼女子の部

優勝 高橋さくら
準優勝 白木優花
3 位 柏葉汐音

支部対抗

H23/11/27

▼3人立団体戦

優勝 土浦市B
準優勝 蒼籐会A
3 位 下館B、藤代A

新年射会

H24/1/29

▼三段以下

射詰優勝 緑川なおみ

・男子

優勝 山次禎治郎
準優勝 江口昭裕
3 位 宇佐美右

・女子

優勝 甲 洋子
準優勝 緑川なおみ
3 位 熊丸莉奈

▼四・五段

優勝 山口 純

・男子

優勝 橋本真樹
準優勝 山口 純
3 位 藤崎岳人

・女子

優勝 飯田純子
準優勝 財津昌子
3 位 福田直子

▼称号受有者

優勝 中井川一郎
準優勝 中井川一郎
3 位 森 昭夫

・男子

優勝 高羽京子
準優勝 中野治子
3 位 橋本勢子

・女子

優勝 高橋義之
準優勝 高橋義之
3 位 高橋義之

春季大会

H23/5/21

▼男子の部

優勝 松崎稔昌
準優勝 中島鉄郎
3 位 信戸修一

▼女子の部

優勝 佐藤敬子
準優勝 大金喜代子
3 位 大川都志子

▼総合の部

優勝 松崎稔昌

秋季大会

H23/11/26

▼男子の部

優勝 勢司利之
準優勝 白石直之
3 位 高橋義之

▼女子の部

優勝 佐藤敬子
準優勝 大金喜代子
3 位 大川都志子

▼総合の部

優勝 勢司利之

高体連県内大会

春季大会 兼 関東大会県予選

H23/5/5 (女子)
H23/5/8 (男子)

▼男子団体

優勝 鹿島A
準優勝 牛久栄進
3 位 水戸一A

▼女子団体

優勝 水海道一
準優勝 清真学園
3 位 土浦第二

▼男子個人

優勝 松浦佑樹
準優勝 藤枝大地
3 位 仲澤和也

▼女子個人

優勝 大橋佳奈

準優勝 菅野朝未
3 位 長谷川絵鈴

監督 駒崎三祐貴
廣瀬真衣
佐久間和彰

高校総体予選 県民総体予選
全国総体予選 国体茨城大会

H23/6/10・11・13

▼男子団体

優勝 竹園

準優勝 水戸第一

3 位 太田第一

▼女子団体

優勝 日立第一

準優勝 清真学園

3 位 佐和

▼男子個人

優勝 井坂直貴

準優勝 山村征寛

3 位 千葉公暉

▼女子個人

優勝 相原利恵

準優勝 宮本沙輝

3 位 佐藤美和

国体選手選考会

H23/6/18 (1次)

H23/6/24 (2次)

▼男子の部

候補選手 安田智哉

山村征寛

飯島佳之

監督 牧田幸博

▼女子の部

候補選手 長谷川絵鈴

県個人選手権 兼
関東個人選手権 県予選会

H23/8/16 (女子)

H23/8/17 (男子)

優勝 太田勇輝

準優勝 近藤圭

3 位 稲橋一輝

優勝 駒崎三祐貴

準優勝 久保田ともみ

3 位 植田千尋

優勝 稲橋一輝

準優勝 赤坂和也

3 位 小笠原涼

優勝 久保田ともみ

準優勝 齋賀奈々海

3 位 安部亜侑香

県高校弓道秋季大会

H23/9/20

優勝 鹿島

準優勝 日立商業

3 位 霞ヶ浦

優勝 土浦第二

準優勝 土浦第二

3 位 土浦第二

優勝 土浦第二

準優勝 土浦第二

新人大会 兼 全国選抜予選

H23/11/4 (男子)

H23/11/7 (女子)

優勝 石岡商業

準優勝 筑波

3 位 日立商業、守谷

優勝 筑波

準優勝 土浦第二

3 位 鹿島B、水戸桜牧

優勝 岡野貴大

準優勝 赤坂和也

3 位 堀雄貴

▼男子個人

優勝 内山田咲

準優勝 大里裕華

3 位 菅谷円美

優勝 内山田咲

準優勝 大里裕華

3 位 菅谷円美

優勝 内山田咲

準優勝 大里裕華

3 位 菅谷円美

県総合体育大会

H23/7/25

優勝 清真学園中

準優勝 江戸川学園取手中

3 位 城西中

優勝 東海南中

準優勝 土浦三中

3 位 朝日中

優勝 和田(清真)

準優勝 富樫(東海南)

3 位 梅原(内原)

優勝 菊池(東海南)

準優勝 柳本(阿見)

3 位 重藤(東海南)

優勝 和田(清真)

準優勝 富樫(東海南)

3 位 梅原(内原)

優勝 菊池(東海南)

準優勝 柳本(阿見)

3 位 重藤(東海南)

優勝 清真学園中A

準優勝 東海南中C

3 位 内原中A、土浦一中D

優勝 東海中B

準優勝 朝日中A

3 位 土浦二中F、竹来中B

優勝 和田(清真)

準優勝 萩原(土浦二)

3 位 萩原(土浦二)

優勝 和田(清真)

準優勝 萩原(土浦二)

3 位 萩原(土浦二)

3 位 阿久津(竹来)

優勝 石橋(東海)

準優勝 豊島(東海南)

3 位 中村(愛宕)

県新人大会

H23/10/29

優勝 城ノ内中

準優勝 東海南中

3 位 竹来中

優勝 清真学園中

準優勝 内原中

3 位 江戸川学園取手中

優勝 三留(城ノ内)

準優勝 矢口(竹来)

3 位 山下(阿見)

優勝 篠塚(清真)

準優勝 都平(内原)

3 位 矢澤(内原)

優勝 篠塚(清真)

準優勝 都平(内原)

3 位 矢澤(内原)



平成 23 年度 中央（臨時）審査会 合格者

取 得	氏 名	所 属	取得日	審査場所		区分計
教士	小島 幸子	水戸	H 23.7.8	仙台定期中央審査（代替地）	浜松	1 名
錬士	斎藤ミユキ	土浦	H 23.5.28	東海臨時中央審査	浜松	8 名
	金子久美子	日立市	H 23.7.10	仙台定期中央審査（代替地）	浜松	
	森實 裕人	日立市				
	辻 尚宏	土浦亀城	H 23.8.13	特別教員臨時中央審査	富山	
	小泉 紀子	原子力機構	H 23.12.17	特別臨時中央審査	東京	
	櫻井 信一	龍ヶ崎				
	梶 直子	神栖				
	久保 喜雄	麻生	H 24.2.19	錬士号取得特別講習会	東京	
八段	張替 謙一	北総	H 23.5.5	京都定期中央審査	京都	1 名
六段	氏家 充義	土浦亀城	H 23.7.9	仙台定期中央審査（代替地）	浜松	3 名
	武田美代子	潮来	H 23.10.9	東北臨時中央審査	岩手	
	滝本 敏雄	土浦	H 23.11.4	東京定期中央審査	東京	
合 計						13 名

平成 23 年度 連合審査会 合格者

取 得	氏 名	所 属	取得日	審査場所		昇段者数
五段	高瀬由美子	みと葵	H 23.2.27	関東地域連合審査東京	東京	2 名
	田中 宏和	藤代				
	齊藤 尚武	水戸	H 23.6.5	関東地域連合審査【群馬】	群馬	1 名
	飯村友三郎	土浦	H 23.7.24	関東地域連合審査【千葉】	千葉	1 名
	石川 友三	みと葵	H 23.9.19	関東地域連合審査【栃木】	栃木	2 名
	南 隆一	牛久				
	新山 晃一	日製（日立）	H 23.10.9	関東地域連合審査【茨城】	茨城	4 名
	桑原 恒夫	水戸				
	上田 有香	神栖				
	幕内 雄基	玉里酔心館	H 23.11.20	関東地域連合審査【東京】	東京	1 名
梅山 泰美	取手					
合 計						11 名

茨城県弓道連盟のホームページのURLが変わりました。新しいURLは <http://ibakyuren.com/> です。

